

Ultimaker

3D プリンティング センチメントインデックス-最も先進的なのは米国

Ultimaker の「第 1 回 3D プリンティング センチメント インデックス調査」により、世界規模での 3D プリンティングの成長可能性が明らかに

日本・東京 / シンガポールー [Media OutReach](#) – 2019 年 11 月 19 日ー デスクトップ 3D プリンターのグローバルリーダーである [Ultimaker](#) は本日、第 1 回の年次調査「[3D プリンティング センチメントインデックス](#)」の結果を発表しました。この調査は国際的な独立市場調査会社 [Savanta](#) によって実施され、3D プリンティングの現状および将来の可能性について、世界 12 カ国における総合的な展望を探ると同時に、調査の対象を教育分野も含めた幅広い業種・業界まで拡大したものです。数値化した指標から、付加製造技術(3D プリンター)の導入および市場機会の収益化に対して最も期待値が高いのは、米国、英国、ドイツであることが明らかになりました。

1	米国	7	メキシコ
2	英国	8	スイス
3	ドイツ	9	イタリア
4	フランス	10	オランダ
5	中国	11	スペイン
6	日本	12	インド

このインデックスは、市場認識や導入、導入までの経過、また 3D プリンティングがもたらす影響への意識を測るために実施しました。2,548 人の有資格プロフェッショナルを対象に行った面接調査とマクロ経済要因の詳細な分析をもとに作成されています。6 項目の重要キーワードとして市場認知、導

入及び導入済み拠点、3D

プリンティングへの成長指標、将来への影響また期待値、技術基盤、導入へ容易さを抜粋していません。全体では、回答者の 67%が調査時点で「3D プリンティング」もしくは「付加製造」という言葉を認識していました。しかし、実際にこうした技術を導入していたのは 35%に過ぎませんでした。3 分の 2 (65%) の回答者が「3D プリンティングが業界を変革する」と考えており、40%近くが「今後 12 カ月で 3D プリンティングがオペレーションを大幅に効率化し、コストを削減する」と回答し、市場が急速に進化していることを示唆しています。

「3D プリンティング」もしくは「付加製造」の市場認知度

今回の調査において、3D プリンティングの認知度が最も高かったのはオランダ(83%)、スイス(82%)、米国(77%)でした。オランダには複数の 3D プリンター会社の本社があり、しばしば技術面でのリーダーと目されています。スイスでは製造と研究の両面で堅調な成長を遂げており、産業界における 3D プリンティングのイノベーションや導入率も高くなっています。

3D プリンティング技術の導入

すでに 3D プリンティング技術を導入している、および 5 年以上使用している企業の数調査することで、現時点における各国の市場成熟度を割り出しました。中国では 53%の企業が 3D プリンターを導入し、11%がすでに 5 年以上使用していました。次いで割合が高かったのが米国(導入率

34%、5年以上使用率 19%)とフランス(導入率 42%、5年以上使用率 8%)でした。この3カ国の割合は、世界平均を大幅に上回っています。

現時点での 3D プリンティング予算および将来的な投資拡大

3D プリンティング技術を認識していると答えた 67%の回答者のうち、現在および将来的な予算について尋ねたところ、「現在および今後 12 カ月間の予算計画の中での最優先項目」と答えた割合が最も高かったのは、中国、インド、オランダでした。中国の付加製造アライアンス(Additive Manufacturing Alliance of China)事務局長を務める Wang Peng 氏は[テレグラフ紙](#)の取材に対して、「中国では 3D プリンティングが最盛期を迎えようとしています。長年の発展を経て、今や革新的なコンセプトの段階から製造現場の改善のために極めて有効な手段と考えられるようになっていきます」と述べています。インドやオランダは、現時点でのインストール率は低いものの、肯定的なセンチメントが見られることから、今後、間違いなく投資が拡大していくと予想されます。

Ultimaker のグローバルリサーチ&アナリティクス担当ディレクター、Rohit Jhamb は次のように述べています。「センチメントはドミノ効果を引き起こします。肯定的なセンチメントは積極的な行動や投資につながり、将来的に大幅な持続可能な成長となります。今回の調査はエンドカスタマーの声をマクロ経済指標と組み合わせることによって、規模の面でも内容の面でもこれまでにない充実した調査になっており、3D プリンティングのエコシステムの現状と将来的な成長可能性について、全体像をつかむことができます。また 3D プリンティングがトレンドのものであるという過去のイメージから抜け出しました。未だに 3D プリンティングの技術を利用したことなく、導入を躊躇っている関係者も恐れずに取り入れることで健全な利益と貢献が期待できるとをこの指標が証明しています。」

Ultimaker の最高経営責任者(CEO)、Jos Burger は次のように述べています。「エンドカスタマーの立場に寄りそうことは、当社が常に最も重視していることです。今回の調査結果によって、誰でも 3D プリンティングを活用して素早く ROI が得られるよう、使いやすく信頼性の高いソリューションを提供していくという現在の当社の戦略の正しさを再確認することができました。その意味で、ハードウェア、ソフトウェア、素材のオープンなエコシステムを市場に提供している Ultimaker はユニークな立場にあります。既存のワークフローにスムーズに統合できる完全なソリューションを提供することによって、当社は確実に将来の成長可能性を最大限に高め、真のデジタルディストリビューションと現地生産を実現するための原動力となり続けるでしょう。」

3D プリンティング センチメントインデックスについて

調査は、Ultimaker の依頼により独立市場研究およびクリエイティブコンサルタント会社である Savanta グループが 3 つの主要地域(ヨーロッパ、APAC、および北米)で 2019 年 8 月 1 日から 9 月 30 日まで実施しました。この調査はオンラインで実施され、8 の言語 12 か国で実施されました。この調査は、教育、自動車および航空宇宙、製造、建築および建設、消費財、ヘルスケアおよび医療技術、エンターテインメントおよびクリエイティブ産業で働く専門家を対象としています。調査、主要なアプリケーションに関する国レベルの詳細については、「<https://3d.ultimaker.com/Ultimaker-3D-Printing-Sentiment-Index>」を参照してください。

Ultimaker について

Ultimaker は 2011 年にオープンで使いやすい 3D プリンターソリューションを開発して以来、プロのデザイナーやエンジニアが日々、イノベーションを生み出すためのソフトウェアや関連素材の製造および販売を行っています。現在、デスクトップ 3D プリンティング市場のリーダーである Ultimaker は、オランダのほか、ニューヨーク、ボストン、シンガポールに営業拠点を置くほか、欧州および米国に生産拠点を持つグローバル企業として、400 名を超す従業員が丸となって、世界的

なデジタルディストリビューションと現地生産への移行を加速させています。詳細については ultimaker.com をご覧ください。

APAC における報道関係者のお問合せ先

Angeline Tan

+65 8468 0321

a.tan@ultimaker.com